

子どもの資質・能力を育成するための ICT活用に向けて

<u>はじめに</u>	
Q1	<u>学習の見通しをもたせるために大切なことは？</u>
Q2	<u>振り返りの充実に向けて大切なことは？</u>
Q3	<u>ICT端末は毎時間使うの？</u>
Q4	<u>ICT端末があれば教科書は必要ない？</u>
Q5	<u>教師の役割として意識する視点は？</u>
Q6	<u>子どもの考えを深めるために大切なことは？</u>
Q7	<u>アウトプットの機会を増やすことで他にどんな効果が期待できるの？</u>
Q8	<u>他者参照させると、自分で考えない子どもが育つのでは？</u>
Q9	<u>文字の入力方法は自由でよい？</u>
Q10	<u>今後充実すべき授業スタイルは？</u>

変化が激しく、先行きの予測が困難な社会において、子どもたち一人一人が思い描く未来を創造することができるよう、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を通して、「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善を図り、必要となる資質・能力を育むことが求められています。

こうした授業改善を進めるためには、ICT端末を効果的に活用した取組が必要であり、この度、本市の学校で推進している、「学校力向上に関する総合実践事業」、「リーディングDXスクール事業」、「新しいかたちの学びの授業力向上推進事業」、「教育実践推進事業」等の取組から授業づくりの視点等をまとめました。

授業DXのポイント

○クラウドの活用…クラウドを活用することで共同編集や他者参照などが容易にできるようになります。大人数でのコミュニケーションを同時に行うこともできます。また、クラウドを有効活用することで授業での資料配付、情報の共有などを速やかに行えるようになり、その分の時間を子どもたちが自分でじっくりと考える時間や友達と交流する時間に使えるようになります。

○汎用的なアプリケーションの利用…ICT端末に最初からインストールされている汎用的なアプリケーションで、授業改善を十分に行うことができます。汎用的であるため、基本操作を覚えやすく、大人になってからも活用できること、教師も扱いやすいことなどのメリットが多くあります。

○各教科等の見方・考え方を生かす…授業でICT端末を活用する場合においても、各教科等の指導で大事なポイントとなる見方・考え方を生かした授業づくりを意識しましょう。

授業DXを進めるために まずは校務から

授業DXを推進するためには、教職員が日常の校務の中でデジタルツール（クラウド機能や共同編集機能）を積極的に活用し、自然な形でスキルを身に付けることが効果的です。

日常の校務からデジタルツールを活用することを、校務DXと呼んでいます。校務DXを推進することで、教員がデジタルツールの利便性を体感し、使い慣れることで、授業DXへとつなげることができます。

校務DXの実践例 ～旭川市リーディングDXスクール事業ホームページ～

校務DXの実践例の一部を紹介しています。右の二次元コードから見るすることができます。情報共有をクラスルームやチャットで行う簡単な取組や、職員会議でのスプレッドシート活用事例（事前の質疑応答）などを紹介しています。学校全体の事務作業の効率化を促進し、教員の業務負担の軽減につながる取組としても参考にしてください。



「子どもの資質・能力を育成するためのICT活用に向けて」Q&A



Q1 学習の見通しをもたせるために大切なことは？



A1 子どもと学習計画を共有してみましょう。

以下のことを意識して学習計画を立て、共有できるようにすることが大切です。

- ・単元や1単位授業時間での学習のゴール（目指す姿）、見通し、必要な資料
- ・個別学習や協働学習場面の設定
 - 何を明らかにするための活動なのか（各教科の見方・考え方と関連）
 - 必要な学習訓練ができているか
- ・個々の学習状況に対応するための視点
 - 子どもの活動を価値付けるための見取り
 - 課題に対する自己調整を促す振り返りの設定

子どもと学習計画を共有する

（クラスルームの活用例）

～ 教科・単元・子ども達の実態に合わせながら、学び方を更新していきましょう ～

教科・単元名・時数

- ・学習課題や目標
- ・意識させたい視点（見方・考え方）

〈学習の流れ〉を提示しておくことで、指示が減り、発問も精選されます。

また、子どもが自力で学習を進める時間が増える分、教師による個々の見取りや支援を充実させるようにします。

- ・前時までの学習記録（まとめ・振り返り）
- ・学習コンテンツ（外部HPや動画など）

国語：きいて、きいて、きいてみよう〈4時間目〉

すべての生徒

課題
それぞれの役割の工夫やよさを確かめ、インタビュー本番に備えよう。
視点
話の流れ 質問の意図 要点
目標
それぞれの役割の工夫やよさがわかり、以前に決めた自分の目標を見つめ直す。

〈学習の流れ〉
①課題設定
・学習課題、流れを確認する。
（クラスルーム、スプレッドシート）
②情報の収集～③整理・分析
(1)インタビュー動画から、記録者としてのメモに挑戦する。（ノート／ふきだしくん）
(2)P48～49の会話文から、「きき手」と「話し手」の工夫やよさに線を引く。（教科書）
④まとめ・表現
・(1)と(2)について、友達と比べる。その後、全体で確認。
・前回の質問メモを見直す。（スライド：まとめ3）
・視点をもとに、自分の目標（ノート：2時間目のまとめ）を見つめ直す。
・スプレッドシートに、次の時間のインタビュー目標を入力する。
⑤振り返り
・次回の確認。

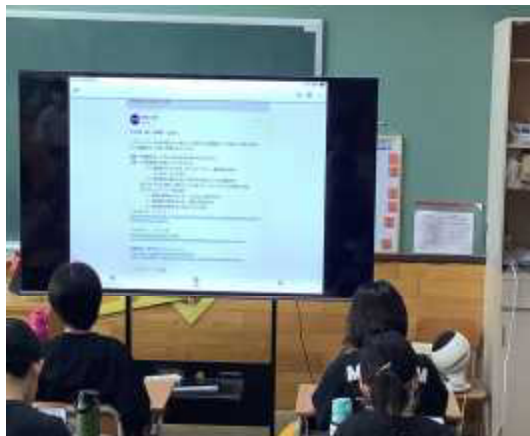
ふりかえりシート「きいて～」
生徒がファイルを編集できる

きいて～ まとめ3
生徒がファイルを閲覧できる

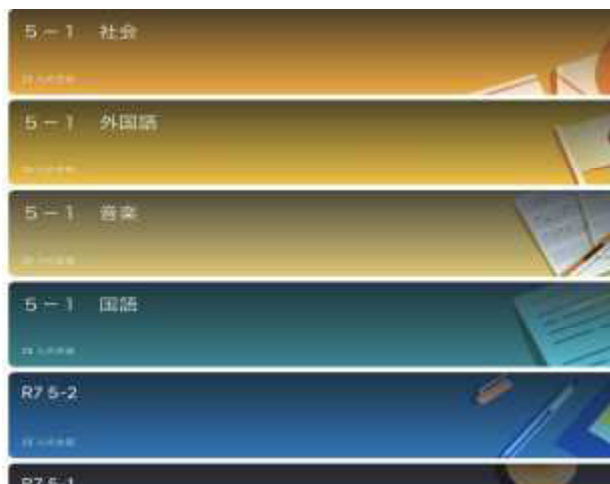
インタビューの様子！広がる学び、深まる学び

— 実践例 —

子どもと学習計画を共有する実践例



学習計画は、基本的にクラスルームで個人に配信するとともに、必要に応じて教室のモニターなどに提示します。各教科の指示が膨大になるので、右のように教科ごとにクラスルームを作ると便利です。



国語

伝えたいことを整理して報告しよう
みんなが使いやすいデザイン

ゴール

【調べて集めた情報を整理して、友達にきょうみをもって読んでもらえる文章を書こう】
・スライドを使って作成したものを交流する。

身につけたい力

☆必要な情報を集め、仲間分けしたり比べたりして活用する力
☆構成や文を工夫し、読み手に伝えたいことが伝わるように書く力

計画

1時間目 課題設定

- ・同級生向けに作成する
- ・スライドを使ってつくる

2時間目 情報収集

- ・オクリンクを使った情報共有
- ・インターネットや本から情報収集

3～7時間目

- ・文章の構成を考える
- ・交流しながら、伝わりやすい文を考える

8時間目

- ・作ったスライドを読み合い、コメントを伝え合う。

今日の学習課題

【ゴールを見通して、学習課題をつくらう】



伝えたいことを整理して...
Google スプレッドシート

原簿
Google スライド

社会

0702 P86 おいしい米を全国に

P88 米づくり農家のかかえる課題と新しい取り組み

1課題 どのように消費者の届けられるか

これからの米づくりは？

2情報収集 教科書に線を引き スプレッドシートにメモする

3整理分析 米づくりの課題とこれからについて 友達と交流する

4振り返り

S 農家の課題がわかり、日本の米づくりについて考えをまとめ、友達に説明することができる

A 農家の課題がわかり、これからの米づくりについてまとめることができる。

B 消費者に届くまでを理解することができる。



社会5-2米づくりのさか...
Google スプレッドシート

外国語活動

【夢の時間割を計画し、グループ内で発表しよう】

☆次回は、動画を撮影し、クラスみんなに見てもらおうよ！

- 1 あいさつ
- 2 単語の確認
- 3 今日のゴールの確認
- 4 お手本を見よう！
- 5 オクリンクプラスに夢の時間割をつくろう
- 6 グループで発表しよう（次回に向けた練習！）
- 7 ふりかえり



L3 I have P.E. on Monday...
Google スプレッドシート

体育

0409(水)

体ほぐしの運動1 ◎=赤色
△=青色

課題 体を動かす楽しさや心地よさを味わうことを通して、自己や仲間の心と体の状態に気付く

振り返り

- 1 オクリンクの使い方
- 2 整列 2列 4列
整列の手合図
- 3 みんな鬼
- 4 じゃんけんダッシュ
- 5 言うこと一緒、やること逆
- 6 振り返り

最初は、簡単な見通しと振り返りスプレッドシートの活用から始めます。子どもたちが理解して行動に移せるようになったら、少しずつ詳しい指示や添付コンテンツを増やしていきます。慣れてくると、前日の授業準備のほとんどはクラスルームを活用してできるようになります。複数の学級がある小学校の場合は、教科担当を決めて、担当者が各クラスのクラスルームに学習計画をアップするようにすると業務削減にもつながります。



Q2 振り返りの充実に向けて大切なことは？



A2 振り返りの共有と蓄積を工夫してみましょう。

子ども一人一人に、自己調整して主体的に学ぶ力を育てるためには、学習の振り返りを充実させることが必要です。学習したことの意味を考え、身に付いた資質・能力を自覚し、新たに生まれた疑問などから次の学習課題を考えることができるように指導することが大切です。この振り返りの充実に向け、クラウド機能を活用することで、振り返りを「共有」「蓄積」することができます。「共有」することで、友達の考えを読んで考えを広げることができますとともに、「蓄積」することで、自己の学びの変容に気付くことができます。

クラウド機能を活用した振り返り

クラウド機能を使い、スプレッドシートやナンバーズなどの表計算ソフトを共有できるように設定することで、白紙の状態から、互いの考えをリアルタイムで見合うことができます。また、一人一人の振り返りを蓄積することにより、前時の振り返りと比較し、学びの変容に気付いたり、次時の学びを見通したりすることができます。



実践例

クラウド機能を活用し自己評価を共有することで、クラス全体の取組状況や振り返りが可視化されます。そのことで、自らの学びを客観的に捉え、メタ認知が促されて自己成長につなげることができます。

1. Welcome to Japan. 「海外の文化」 授業の振り返り

Today's lesson: 「授業について好きな物事を英語で話して、理解を深めよう。」

Key sentence: What do you like about Japan?

A: I like ~

B: I like (They are ~) delicious, cool, delicious, healthy, nice, beautiful.

紹介したい理由: cool-カッコいい, delicious-おいしい, fun-楽しい, strong-強い, kind-親切, love-好き, interesting-面白い, cute-かわいい, interesting-おもしろい

あなたの海外の人に紹介したい日本の文化は？ (食べ物-food, 飲み物-drink, 服-clothes, キャラクター-character, 行事-event, スポーツ-sports, アニメ-anime, マンガ-manga, 音楽-music, はやりの車-the-popular car)

紹介したい理由: cool-カッコいい, delicious-おいしい, fun-楽しい, strong-強い, kind-親切, love-好き, interesting-面白い, cute-かわいい, interesting-おもしろい

あなたと海外の人に紹介したい日本の文化は？ (食べ物-food, 飲み物-drink, 服-clothes, キャラクター-character, 行事-event, スポーツ-sports, アニメ-anime, マンガ-manga, 音楽-music, はやりの車-the-popular car)

紹介したい理由: cool-カッコいい, delicious-おいしい, fun-楽しい, strong-強い, kind-親切, love-好き, interesting-面白い, cute-かわいい, interesting-おもしろい

あなたと海外の人に紹介したい日本の文化は？ (食べ物-food, 飲み物-drink, 服-clothes, キャラクター-character, 行事-event, スポーツ-sports, アニメ-anime, マンガ-manga, 音楽-music, はやりの車-the-popular car)

紹介したい理由: cool-カッコいい, delicious-おいしい, fun-楽しい, strong-強い, kind-親切, love-好き, interesting-面白い, cute-かわいい, interesting-おもしろい

スプレッドシートなどのクラウド機能を活用すると、日付ごとに記録を残し、振り返りを蓄積できます。同じ項目で継続的に記録することにより成長を実感しやすくなります。文字数カウント機能などを活用すると表現力の向上につなげることもできます。

自分のまとめ (課題について自分なりにまとめてみよう)	今日の振り返り (振り返りについて)	文字数カウント
今日の振り返り (振り返りについて)	今日の振り返り (振り返りについて)	240
今日の振り返り (振り返りについて)	今日の振り返り (振り返りについて)	198
今日の振り返り (振り返りについて)	今日の振り返り (振り返りについて)	640
今日の振り返り (振り返りについて)	今日の振り返り (振り返りについて)	50
今日の振り返り (振り返りについて)	今日の振り返り (振り返りについて)	196
今日の振り返り (振り返りについて)	今日の振り返り (振り返りについて)	104
今日の振り返り (振り返りについて)	今日の振り返り (振り返りについて)	110



Q3 ICT端末は毎時間使うの？



A3 子どもの実態や目的によって使い分けましょう。

ICT端末については、手段として活用するものであり、毎時間使うことが必須ではありません。将来的には子どもが自ら考え、紙とデジタルの双方の良さを生かし、自らの学びに合った方法で上手に使い分けていくことができるようになることが大切です。

そのためには、例えば、小学校低・中学年では、ノートとICT端末を組み合わせた学習活動を通して、ICT端末に触れる機会を増やし、その楽しさや便利さを体験させながらそれぞれの違いを理解させることが必要です。小学校高学年から中学校では、ノートとICT端末それぞれの特性を深く理解し、学習内容や目的に応じて使い分けることができるように指導していくことが重要です。

子ども自身が学ぶ方法を選ぶように

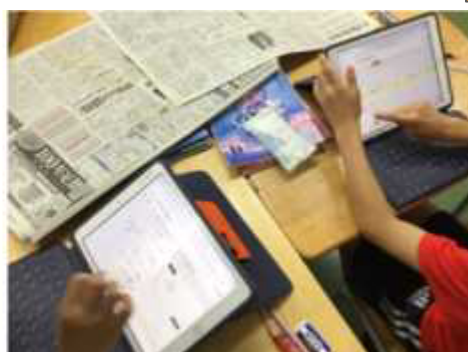
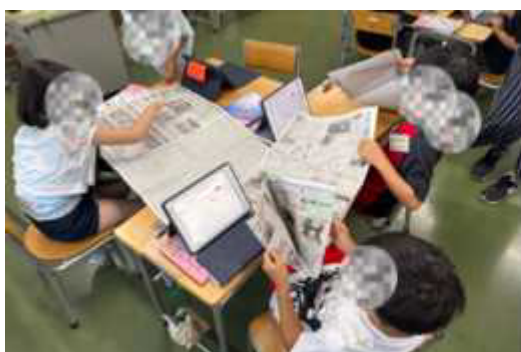
これからもノートや漢字練習帳・学習ドリルなどを使用して学習する大切さは変わりません。しかし、ICT端末の扱いに慣れてくると、「考える場面では自在に書ける紙がいい」「後で整理して直せるからICT端末にまとめたい」など、子ども自身が紙とICT端末を使い分けて活用することができるようになります。紙とICT端末のどちらかに偏ることなく、学ぶときに何を使うかを選ぶようにすることが大切です。

— 実践例 —



しっかり見てほしい、書くことで覚えてほしい場面では、当然ICT端末を使用しないことがあります。また、ICT端末で調べた情報をノートにまとめる場面もこれからも変わらず大切です。

一方で、調べた情報を共有する場面、他者の考えを参照しながら学習を進める場面、探究的な学びを行う場面などでは、クラウド機能を活用する方が効果的です。授業で紙とICT端末を意図的に使い分け、子どもたちがどちらの経験も積むことにより、子どもたち自身が目的に応じて適切に選択・活用できる力を育てます。





Q4 ICT 端末があれば教科書は必要ない？



A4 教科書は主たる教材として活用が必要です。

教科書は、法律により使用義務が課せられている唯一の教材であり、効果的に活用することが必要です。子ども一人一人に応じた学習活動などに取り組ませる場合においても、教科書には、本文等の文章や写真、図、表などに多くの必要な内容が散りばめられており、子どもが教科書をしっかりと読み取ることは、各教科で求められる資質・能力はもとより、学習の基盤となる情報活用能力などの育成を図ることにつながります。

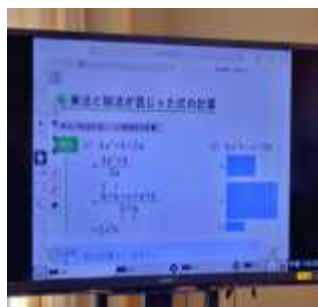
教科書から情報を読み取る

例として社会科では、教科書の大切なところにアンダーラインを引き、必要な内容を読み取ることができますようにします。文章と資料との関わりなどは、線でつなぐなどして思考を整理しやすくします。見つけた情報は、フィグジャムなどのホワイトボードアプリに入力すると、整理・分析の活動が行いやすくなります。

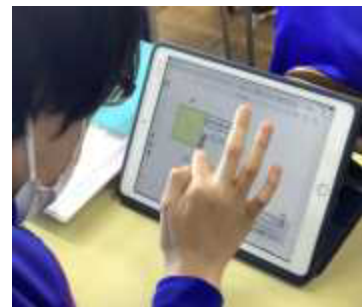
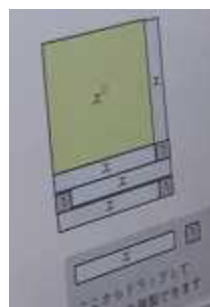


— 実践例 —

デジタル教科書の活用実践



中学校数学2学年の文字式の計算場面での活用事例です。デジタル教科書の解答に付箋を貼ることにより、段階的に計算過程が確認できます。一斉に答えを配付し、時間を短縮することで、練習時間をしっかりと確保できます。



中学校数学3学年の因数分解を学習する導入場面の活用事例です。デジタル教科書にあるコンテンツを利用し、条件設定された四角形を生徒各自がICT端末で操作しています。教科書の問いがそのまま操作活動につながり、面積と対応する縦、横の長さを考える上でスムーズに学習が進みます。

デジタル教科書の様々なコンテンツを授業に取り入れることで、思考ツールとして活用することができます。また、問いや練習問題の答えなどを簡単に提示することができ、練習時間の設定に幅がもたせられ、目的に応じた時間配分の工夫もできるなど、授業において有効なツールと言えます。



Q5 教師の役割として意識する視点は？

A5 ファシリテーターの役割も意識しましょう。

子ども一人一人の学びを最大限に引き出すためには、「ティーチャー」として子どもに一斉指導する役割も必要ですが、子どもが主体的に学ぶ場面においては「ファシリテーター」として、子ども一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことなどの「指導の個別化」を意識することも必要です。教師は、子ども一人一人の実態や進捗状況に合わせて支援することが大切です。

子ども一人一人への支援の一層の充実

授業づくりでは、一斉指導の場面と子どもが学び進める場面を考えて単元構成をすることが大切になります。

子どもが学び進める場面では、一人一人の子どもの異なる学習状況を把握するために、ICTを活用し、実態に合わせて支援します。また、教師と共に学習に取り組むことで安心して進められる子どもには、適宜声を掛け、本時の目標達成に向けて支援します。



Column コラム

子どもたちの学習への教師の関わりは減る？

一人一台端末の活用が進み、「子どもたちが自分自身で学びを進める」、「子どもたちの学びが自走する」という言葉をよく耳にするようになってきました。果たして、子どもたちが自分で学びを進めると教師による子どもたちの学習への関わりは減るのでしょうか？

答えは、「NO」です。

「令和の日本型学校教育」において、求められている教師の役割は、子どもたちの学びの「伴走者」であること。教師が子どもたちの主体的な学びを支援する存在として、寄り添い、必要な時に必要なだけサポートし、子どもたちが自ら学びを深めていくように導く役割となることを意味しています。

子どもたちが主体的に学びに向かい、主体的に学ぶことができるよう指導することは大切です。そのために、教えるべきことはきちんと教える、子どもに委ねるところは委ねる、教材研究をしっかりと行うなど、教師の指導性を発揮しながら、子どもたちの資質・能力を育成していくよう努めましょう。



Q6 子どもの考えを深めるために大切なことは？



A6 アウトプットの場面を増やしましょう。

一人一人の考えを深めるためには、アウトプットの場を多く設定することが大切です。クラスルームやチャットなど、それぞれの特徴を生かしながら活用することで、全ての子どもが頭をフル回転させ、アウトプットすることを目指しましょう。

全ての子どもにアウトプットの機会を

全ての子どもにアウトプットの機会を保障する手段として、クラスルームを活用することも一つの方法です。更に、チャットなどの表現手段を増やすことで、瞬時に他者へのアウトプットが可能になります。

また、他者との交流も、一目で数多くの友達の意見を見ることができるので、より自分に合った相手を探して交流することもできます。考えをもつのが難しい子は友達の書き込みを参考にすることも可能です。文字入力であれば活躍できる子どももいることが期待できます。情報交換をすることにより、考えを広げたり深めたりしていくことができます。

教師はこれらのコミュニケーションを価値付けることが大切です。また、オンライン上のマナーについて、子どもと一緒に考えながら指導することが必要です。



— 実践例 —



中3理科「化学変化とイオン」

- ・ ダニエル電池のしくみについて、学んで理解したことを友達に説明。
- ・ 録画し、クラスルームで提出。
- ・ クラスルームを通して全員分のアウトプットの状況を確認。



- ・ 全員がアウトプット。
- ・ 撮影することで、言葉を選び、正確に伝えようとする。
- ・ 使うものは教科書。アウトプットするには、よく読み、図を理解することが重要。



Q7 アウトプットの機会を増やすことで他にどんな効果が期待できるの？



A7 育まれる力の一つとして 「自分の考えを表現する力」の育成に期待がもてます。

子どもたちが「知識・技能」を習得し、それを基に自分の考えをアウトプットする機会を増やし、友達に対して自分の考えを伝えながら協働的に学びを深める場面を大切にしていけることにより、旭川市の子どもたちの課題となっている「自分の考えを表現する力」を育てていくことが期待できます。

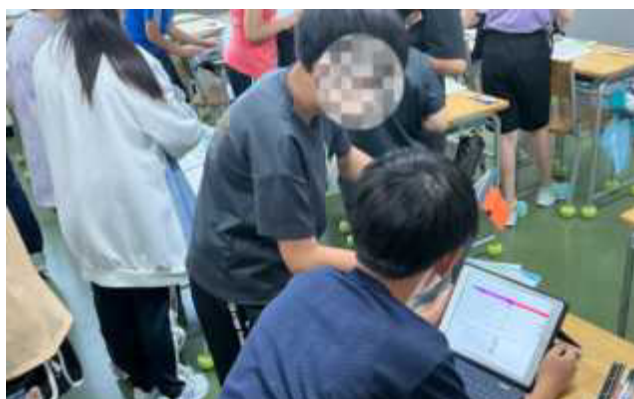
知識・技能の習得につながる

知識・技能の習得に向けては、子どもの実態や発達段階を踏まえつつ、反復練習もしながら、確実に定着させることが大切になります。

そうした学習に加え、子どもたちが覚えたことを課題解決に活用し、その後、友達に説明するなど、アウトプットの機会を増やすことで、「生きた知識」となり定着しやすくなります。



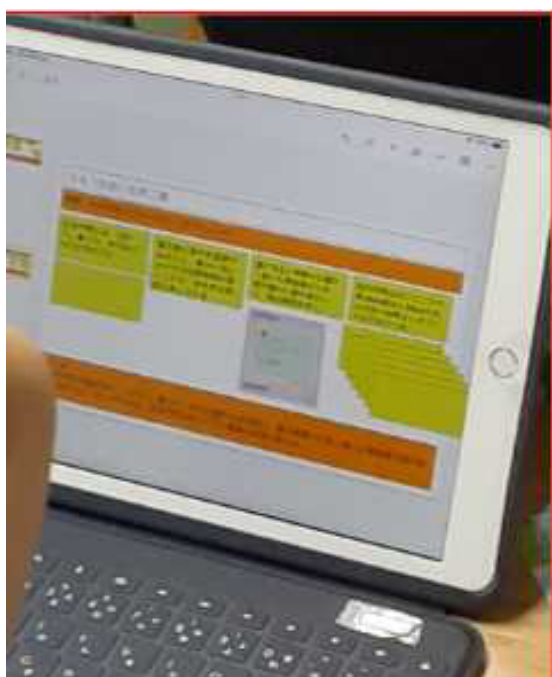
— 実践例 —



クラウド機能を活用したアウトプットだけでは自分の考えを共有したことにはなりません。自分の考えを友達と説明し合ったり、交流したりする場面を教師が意図的に設定することが重要です。

また、完成後の交流だけではなく、途中段階でも交流し、他者の考えと比較して自分の考えを見直す機会をつくることも大切です。

説明や交流の場面では、各教科の見方・考え方を働かせ、本時の目標達成にもつながる交流の方法を教師が仕掛けることにより、深い学びへと導くことができます。





Q8 他者参照させると、自分で考えない子どもが育つのでは？

A8 他者参照を行うと多くの効果が期待できます。

他者参照とは、取組の途中や交流場面などにおいて、友達の意見や情報、成果など、他者の考え方などを参照して学ぶことをねらって行います。

他者参照を積極的に進めている学校からは、

- ・友達の学びを可視化することができる。
- ・新たな発見や解決策を見つけることができる。
- ・多角的な視点をもつことができる。

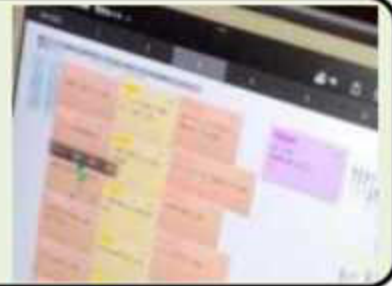
などの効果のほか、これまで授業中に一人だけで学習を進めることが難しかった子どもたちが、

- ・友達の考えや取組の様子を参照できることで、自分なりの考えをまとめることができる。
- ・自分の考えに自信をもって学びを進めることができる。

などの効果が報告されています。

共同編集機能の活用

オクリンクプラスのみんなのボードや汎用的な各種アプリの共有機能を活用し、他者参照を繰り返すことを通して、一人一人が自分で学びを進めたり、友達のよい考えから学びを深めたりできるようになることが期待できます。



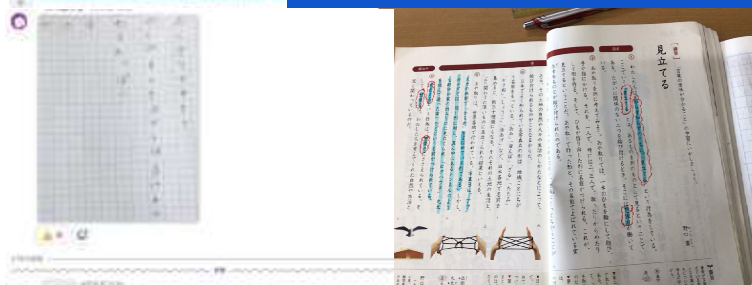
— 実践例 —

他者参照を取り入れた実践例



図工 スプレッドシート共同編集

スプレッドシートに関しては、どの教科においても活用することができます。完成したものの交流はもちろん、友達の考えや作品の途中経過を参考にすることも可能です。左は図工の実践例です。一覧にすると項目が多すぎる場合は、子どもたちの人数分シートを作成し、それぞれの進捗に合わせて、取り組ませるようにします。



国語 チャットコメント リアクション交流

外国語活動 発音動画交流



上は国語で、教科書から読み取った情報をチャットの活用により交流し、リアクションしたり、友達同士で助け合って学習する様子です。

左は発音動画をドライブにアップして交流している様子です。自信がない子は、早くできた子の動画を見て参考にしながら練習します。

図工 オクリンクプラス コメント交流



小学校限定ですが、オクリンクプラスを活用した例です。人数分のボードを準備し、フィグジャムのように思考を整理するために使うこともできます。例のように完成した作品やまとめたカードを参照し、交流することができます。みんなのボードにカードをあげると、友だちがまとめたものの途中経過を参考にしながら学習を進めることも可能です。



Q9 文字の入力方法は自由でよい？

A9 タイピングスキルを身に付けることを目指しましょう。

タブレットでの文字入力、これからの社会で必要不可欠なスキルです。小学校・中学校での指導を通して、子どもたちが楽しく文字入力のスキルを習得し、最終的にタイピング（キーボードによるローマ字入力）ができるようにしていくことが大切です。また、発達段階を考慮し、段階的にスキルが習得できるように指導することが重要です。

小学校低学年…音声入力・手書き入力→日本語50音キーボード・タイピング（ローマ字入力）

小学校中学年…日本語50音キーボード・タイピング（ローマ字入力）

小学校高学年…タイピング（ローマ字入力）※1分間に40字程度

中学校…タイピング（ローマ字入力）※1分間に60字程度



文科省資料「教育DXに係るKPIの方向性（R6.2.26）」より

※ただし、特別な配慮が必要な子どもに対しては、個に応じて、適切な方法を選択する必要があります。

日常的にタイピングの指導を

タイピングのスキルを身に付けるためには、日常的にタイピングを練習することが必要です。

- ① タイピングソフトの使い方を指導する。
 - ② 朝学習・隙間の時間・家庭学習で練習する（視写入力）。
 - ③ 授業で自分の考えをタイピングする（思考入力）。
- ※タイピング検定などの取組を行うことも効果的です。



Column コラム

情報活用能力の育成

現在、次期学習指導要領に向けた審議が行われています。その審議では、「情報活用能力」が話題になっています。情報活用能力は、学習指導要領において、「言語能力」「問題発見・解決能力」と並んで「学習の基盤となる資質・能力」として位置付けられています。

【情報活用能力とは】

学習活動において必要に応じてコンピュータ等の情報手段を適切に用いて情報を得たり、情報を整理・比較したり、得られた情報を分かりやすく発信・伝達したり、必要に応じて保存・共有したりといったことができる力であり、さらに、このような学習活動を遂行する上で必要となる情報手段の基本的な操作の習得や、プログラミング的思考、情報モラル、情報セキュリティ、統計等に関する資質・能力等も含むもの

（小（中）学校学習指導要領解説 総則編）

タイピングスキルの習得は、情報活用能力の1つである「情報手段の基本的な操作の習得」にあたります。情報活用能力はその他にも、上記のような力が含まれます。情報モラルや情報セキュリティ等に関する資質・能力の育成も求められます。情報活用能力は、各教科等の特質に応じて適切な学習場面で育成を図ることが重要であり、そうして育まれた情報活用能力を発揮させることにより各教科等における「主体的・対話的で深い学び」へとつなげていくようにすることが大切です。

— 実践例 —

子どもの実態を踏まえた段階的な指導例（朝の時間で練習し、授業につなげる）

【ステップ1】取り組み易い課題で、思考しながら入力に挑戦する

課題		キーワード入れて、お話を作ろう①				見直しのポイント	
キーワード		おじいさん 犬 雨 走る 青 おまつり グラウンド				①「～した。」と「～しました。」を混ぜない。 ②キーワードは、そのまま使いましょう。	
見方・考え方		主語と述語 つなぎ言葉					
目標		B：キーワードを1～3こ使って文を作る。 A：キーワードを4個以上使って文を作る。					
No	氏名	目標	評価	作文（赤丸→もっと良くなるポイント）	字数	先生から	
15		B	-	おじいさんと犬がさんざん歩いていました。ある日、突然雨が降り、おじいさんと犬は走って家へ向かって行きました。	54	☐ くわしく書こう！ ☐ 。「」に注意 ☒ 正しい文字で ☒ 文のつなぎ方に注意 ☒ よく書けています！	
16		B	-	おじいさんと犬が、グラウンドで走った。	20	☒ くわしく書こう！ ☐ 。「」に注意 ☒ 正しい文字で ☐ 文のつなぎ方に注意 ☐ よく書けています！	
17		A	-	朝やおじいさんの家は涼しいので、ぼくはお祭りを誘いに犬を連れて行きました。なぜなら、お祭りの面白い動物を見て、おじいさんと一緒に走りまわりたいからです。お祭りの会場はグラウンドに響くと、音が鳴ってきこえてきて会場に行きました。ですが、途中で雨が止み、暑くなりました。そして、おじいちゃんの家に着くことができたので、おじいちゃんの家で寝てしまいました。	188	☐ くわしく書こう！ ☐ 。「」に注意 ☒ 正しい文字で ☒ 文のつなぎ方に注意 ☒ よく書けています！	

思考しながら入力すると、作業が停滞する子が出てきます。

他者参照でヒントをつかませます。

評価のフィードバックも忘れずに！

思考しながら入力すると、作業が停滞する子が出てきます。
他者参照でヒントをつかませます。
評価のフィードバックも忘れずに！

【ステップ2】取り組み易い課題で、思考しながら入力に挑戦する

課題		キーワードを入れて、お話を作ろう②			見直しのポイント		
キーワード		朝 シロ 分度器 先生 正直 理科 むむい			① キーワードは、そのまま使いましょう。 ② 主語（だれ）が分かるようにきをつけよう！ ③ 理由もつけられたら最高です！		
見方・考え方		主語と述語（文の終わり方） 次の文へのつなぎ方					
目標		B：5分間でキーワードを1～3こ使ってお話を作る。					
		A：5分間でキーワードを4個以上使ってお話を作る。					
No	氏名	目標	評価	作文（赤丸→もっと良くなるポイント）	字数	先生から	
15		B	-	B	2時間目の授業が理科なので、（みんなは）理科室に行きました。	30	☐ くわしく書こう！ ☐ 。「」に注意 ☐ 正しい文字で ☐ 文のつなぎ方に注意 ☒ よく書けています！
16		B	-	B	朝、（犬の）シロがとても眠そうだった。	19	☒ くわしく書こう！ ☐ 。「」に注意 ☐ 正しい文字で ☐ 文のつなぎ方に注意 ☐ よく書けています！
17		A	-	A	僕は、朝起きたらシロという名前の犬の散歩に行きます。ですが、正直にいうと <u>正直い</u> （むむい）です。散歩が終わると僕は、学校に登校します。今日の最初の時間は算数で分度器を使いました。その後の授業は、得意な理科でした。いつも、僕は、このように生活しています。	124	☐ くわしく書こう！ ☐ 。「」に注意 ☒ 正しい文字で ☒ 文のつなぎ方に注意 ☒ よく書けています！

時間制限をする
と入力文字数が減
ります。

頭と手を同時に
働かせるのに慣れ
るまで、練習を重
ねます。

時間制限をすると入力文字数が減ります。
頭と手を同時に働かせるのに慣れるまで、練習を重ねます。

【ステップ3】時間内で決められた文字数を目指す

課題	キーワード入れて、お話を作ろう②				文字数にも条件をつけることで、文の組立や就職など、思考を深めさせます。			
キーワード	教室 風 ジャングルジム 読む オレンジ 自転車 米							
見方・考え方	主語と述語（文の終わり方） 次の文へのつなぎ方							
目標	B：5分間でキーワードを1～3こ使って100字以上のお話を作る。							
	A：5分間でキーワードを4個以上使って100字以上のお話を作る。							
No	氏名	目標	評価	作文	字数	ふり読み ・次も生かしたい自分や友達の様さ ・もっとできるようになりたいこと	字数	先生から
15		B	A	放課後、自転車で公園に行きました。ジャングルジムなどで遊びました。家に帰った後は、本を読みました。	50	数字を50文字以上書きたいです。	16	☐ くわしく書こう！ ☐ 何を学んだの？ ☒ 理由は？ ☐ 次の課題は？ ☐ よく書けています！
16		B	-	教室から、グラウンドのオレンジ色のジャングルジムが見える。その前は、風がとても吹いていた。自転車がグラウンドの周りを回っている	81	前よりも長くかけた。	10	☐ くわしく書こう！ ☐ 何を学んだの？ ☐ 理由は？ ☒ 次の課題は？ ☐ よく書けています！
17		A	B	今日は教室の窓のおかげで風が通っていて、すごくすずしかったです。午休みにオレンジ色のジャングルジムで遊んだ後に図書室に行って本を読みました。学校が終わった後に自転車で帰って米を買いに行きました。	97	結構スラスラかけていなかったから字数が少なかった。	26	☐ くわしく書こう！ ☐ 何を学んだの？ ☐ 理由は？ ☒ 次の課題は？ ☐ よく書けています！

文字数にも条件をつけることで、文の組立や就職など、思考を深めさせます。

【ステップ4】授業につなげる

国語		要約するとき（2時間目）				練習した内容（キーワード↔要点、文字数↔要約）が授業につながるものが自然に意識できます。			
課題		説明文を要約して、読み合おう。							
見方・考え方		読解 問いと答え まとめ 要点 くり返し出てくる言葉							
目標		B：見方・考え方をを使って、重要な文や言葉を見つける。 A：見方・考え方をを使って、80～120字で要約する。							
No	氏名	目標	評価	進んだ説明文	要約文 ①まず作る（文字数がオーバーしてもOK） ②見直す（文字数の中で分りやすいようにするにほ？）	字数	ふり読み よできた／わかった／よかった／流に生かしたい。 よこれから風をつかたい／もっとできるようになりた	字数	先生から
15		B	-	A	パンダの白い部分は雪景色の中に入るときに影が見えにくくなるため、黒い部分（尻、手足）は木の影に隠れるときに役立つ。また、黒色は太陽の熱を吸収しやすいので、体を温める場合もあります。	97	タイピングで文字をたくさん書けるように頑張りたい。	24	☐ くわしく書こう！ ☒ 何を学んだの？ ☐ 理由は？ ☐ 次の課題は？ ☐ よく書けています！
16		B	-	-	パンダの白い部分は、冬に見えにくくなる役に立ちます。もう片方は、黒い部分は、太陽の熱を吸収しやすいので、体を温める効果もあると考えられています。このようにパンダの白黒は、たの環境ではなく自然から守る。生き残るための大切な工夫なのです。	130	たくさんかけたて詳しく書けたから嬉しいです。	22	☐ くわしく書こう！ ☒ 何を学んだの？ ☐ 理由は？ ☐ 次の課題は？ ☐ よく書けています！
17		B	-	-	熊やいろいろな形の熊や回がらがついています。「いいことがあるように。」というねがいがこめられています。どんなねがいがこめられているのでしょうか。まずは、「つるかめ」という文様です。	90	文様について、どんな文様があってどう要約すればいいのかわからなかったけど、わかるようになったのでいい。ち、話しているときにどれだけ要約しているのを知りたい。	79	☐ くわしく書こう！ ☒ 何を学んだの？ ☐ 理由は？ ☐ 次の課題は？ ☒ よく書けています！

練習した内容（キーワード⇔要点、文字数⇔要約）が授業につなげることが自然に意識できます。



Q10 今後充実すべき授業スタイルは？



A10 探究的な学習過程の授業を大切にしましょう。

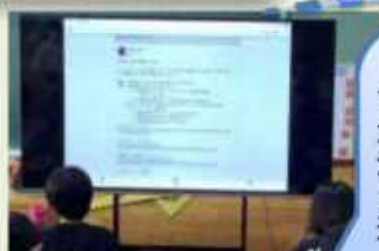
子どもに必要となる資質・能力を育むためには、①課題や問題を自分たちで見つけること ②解決に必要な情報を整理・分析すること ③自己調整しながら学びを進めていくことなど、子どもが主体的に学習に取り組むことができるような、探究的な学習過程の授業スタイルを各教科の特質に応じながら充実することが大切です。

探究的な学習過程と 具体的な学習活動の例

クラスルームで本時の活動の流れや
ゴールを提示する（A1参照）



振り返りでは、スプレッド
シートなどを活用すると、
他者の学びがひと目で分かる



「課題の設定」では、子ども
たちが一人一人課題をもつことが
大切です。共通の大きな課題に
沿って個人の課題を考えましょ
う。また、1時間や1単元の見
通しがもてるように、クラスル
ームなどで学習の流れについて
知らせると効果的です。

課題の設定

「振り返り」
は、学習の流
れに合わせて
適宜行いま
す。自分の学
びの過程を子
ども自身が意
識でき、学び
の調整ができ
るようにして
いきます。

振り返り

「情報収集」で
は、課題解決に
必要な情報を
集めます。教科
書を活用する
ことで学習内
容から外れず
に活動を進め
られるように
なります。

情報収集



教科書の大事
なところにアン
ダーラインを
引く

整理分析

「整理・分析」では、集めた情
報を見方・考え方を生かして、
課題解決のための考えを組み立
てます。途中、他者参照を取り
入れると効果的です。

まとめ・表現

「まとめ・表現」では、個人の課題に
ついてまとめていきます。友達との交
流を通してブラッシュアップするよ
うな場面があるとよりよいです。

文字数をたく
さん入力でき
る、スライド
やドキュメン
ト、ページズ
などを活用し
てまとめを行
う



フィグジャムやフ
リーボードなど
のホワイトボ
ードアプリを
使って教科書
などから得た
情報を整理・
分析する

